

半田中央病院の総合診療医、近藤敬太医師が、豊田市主催の「豊田市地域活性化プランコンテスト」に参加し最優秀賞を受賞し中日新聞に掲載されました。

半田中央病院は、4月より近藤医師ら総合診療医を迎え訪問診療を開始しました。当院も新たなスタートをし、在宅体制による地域支援のみならず、同時に地域の活性化を意識し尽力してまいります。



豊田市長、15人 施策続々

中山間地活性化案を発表

市長になりきって中山間地域の地域活性化の施策を提案するコンテスト「とよたの市長をやってみよう！」の報告会が四日、豊田市稲武交流館で開かれた。市内外から参加した大学生四十代の十五人が三人ずつのチームをつくり、それぞれアイデアを生かした施策を地元住民らに発表した。

参加者は、九月と十一月に二泊三日の合宿を旭、稲武両地区で一回ずつ実施。住民や移住者、市職員などに聞き取りやアンケートを行った上で施策をまとめた。

発表では、シカによる獣害対策として、効果がある

とみられるライオンのふんを山間部へ散布する案や、地元を離れる若者を減らすために、中学生を対象とした起業講座を実施する案などが挙げられた。

最優秀賞には、地域おこし協力隊として看護師を採用し、稲武の各地域を訪問する「みまもりナース」を提案した医師や学生らのチームが選ばれた。メンバーの豊田市小坂本町の総合診療医、近藤敬太さん(せいは)「ここからがスタート。中山間地の新しいモデルをつくっていきたい」と話した。(生津千里)

「2019年11月 5日 中日新聞より」